巻　頭　言

九州地区大学体育連合　会長　**根　上　　優**

一人の人間との出会い，一冊の書物との出会いが，その後の人生を変えることがあるように，一時代を支配する理論との出会いは，研究者にとってまさに運命的なものである。

70年代，あらゆる学問の垣根を越えて科学革命やパラダイムシフトが叫ばれ，欧米の学会から怒濤のごとく新しい学問的潮流が押し寄せてきた。その結果，それまで戦後デモクラシーのイデオロギーに呪縛されていた研究者らは，自由で広い国際的文脈の中に置かれるようになる。60年代に社会学や経済史の研究者の間で盛んに交わされていた「マルクスかウェーバーか」という先鋭的論争が影を潜めたのも，そうしたパラダイムシフトが背景にある。60年代末に社会学の道を志した私もその議論の熱病に浮かれていた一人であるが，当時，学会を席巻していたパーソンズの機能主義の理論を主導する研究者らがマルクスの法則史観の還元主義的思考を「優越要因説」として批判し，それを彼らの理論の一構成要素として回収しつつ，その影響力を無化していく様は，今でも生々しく覚えている。しかし，一つのパラダイムの寿命は短いもので，やがて80年代に入ると，マルクス主義に引導を渡したパーソンズの一般理論も修正を余儀なくされ，その後，現象学的社会学や象徴的相互作用論，エスノメソドロジーといったミクロ社会学の理論に取って代わられ，グランドセオリーの時代は終焉する。

ところで，このようにパラダイムシフトの激しい70年代以降の時代にあって，私の専攻するスポーツ社会学では，30年余の長きにわたって機能主義の理論的パラダイムが大きな影響力を保持し，「スポーツにおける社会化の過程」について膨大な研究データを蓄積してきた。しかし，このような理論的偏重は，スポーツ社会学が人々のスポーツに“参与”するパターン，すなわち「スポーツインヴォルブメント」(sport involvement) の心理・社会的要因の析出に研究者の関心を引き寄せることはあっても，人が“ラグビー”に魅せられる理由を，例えば，ラグビーそれ自体のもつ「呪術性」の究明に向かわせるようなことは皆無であった。このことは，「教育と研究の融合」を理念として掲げ，学生の主体性を引き出す「魅力ある教材づくり」を目指す者にとって，きわめて重大な問題である。

この問題解決のヒントは，70年代に実施された「スポーツインヴォルブメント」の国際比較調査において，カナダのウォータールー大学から送られてきた調査用紙の翻訳にあった。この調査用紙には，“What kind of sport are you involved in?”という質問項目が出てくるが，当時，この翻訳に当たって最も戸惑ったのは，“be involved in”という言語表現の「意味されるもの」と，その深層部にある「文化の違い」「感覚の違い」であった。スポーツに「参加する」と訳すか，それとも「熱中する」と訳す方が妥当か，英和辞典の訳語 ──「没頭する」「夢中になる」「関係する」「関与する」「巻き込まれる」等々 ── を頼りに懸命に議論を重ねたが，英語圏独特の文脈依存性の強い言語表現を前に幾度も挫折した。仮に「適訳」を見出したとしても途端に，それが指示する内容とイメージとの間にある落差が浮き彫りになるからである。結局，「参与する」と訳すことで落ち着いたが，もし当時，ソシュールの言語学やバルトの記号論，さらにはチョムスキーの言語学との出会いがあり，言語表現と言語内容の関係の恣意性や，言語行為の文脈依存性への知識があったならば，それほど苦悩に苛まれるようなことはなかったかもしれない。

さて，ラグビーに魅せられる人がサッカーに興味をもつとは必ずしも言えない。その逆もあり，例えば，“be involved in soccer”という言語表現には，「サッカー」という対象に魅せられ，その世界に全人格的に包絡されていく「呪術性」が含意されている。その意味では，「サッカー」という文化のもつ「呪術的力」が何なのか，を事実に遡って究明することは，学生の主体性を引き出す「魅力ある教材」の開発において最も基本的な視座となる。

目　　次

巻　頭　言 …… 根上　　優（九州地区大学体育連合　会長） 1

Ⅰ．教育研究論文

1．原著論文　　女子学生における日常生活の運動実施頻度に及ぼす心理社会的要因について
…… 角南　良幸（福岡女学院大学）
大隈　節子（福岡女学院大学非常勤講師） 5

2．研究資料　　バドミントン競技におけるラリーポイント制の導入についての研究
…… 鯨　　吉夫（九州歯科大学） 13

Ⅱ．体育・スポーツ教育

1．提　　言　　～事務局担当を終えて～
…… 亀丸　政弘（鹿児島国際大学） 17

2．特別講演
…… 杉山　　進（(社)全国大学体育連合理事長） 19

3．招待講演　　アメリカの３つの大学における非専攻活動プログラムについて
…… Rafer Lutz, Ph.D.（Baylor University, USA） 22

4．シンポジウム

1）独創的体育プログラムに関するアンケート調査結果から
…… 磯貝　浩久（九州工業大学）
杉山　佳生（九州大学）
西田　順一（福岡大学）
柿山　哲治（活水女子大学） 24

2）魅力ある授業，価値ある授業 ── 現代の若者の心身問題に如何にして応えるか ──
若者の＜こころ＞の問題から
…… 杉山　佳生（九州大学健康科学センター） 29

3）魅力ある授業，価値ある授業 ── 現代の若者の心身問題に如何にして応えるか ──
若者の＜体力＞の現状から
…… 廣田　　彰（宮崎大学教育文化学部） 32

4）シンポジウムを振り返って
…… 根上　　優（宮崎大学） 35

5．研究発表

1）他学部生を対象とした生涯スポーツ演習（保健コース）の取り組み
…… 西田　絵美（福岡大学スポーツ科学部）
日高　恵子（福岡大学スポーツ科学部）
森　　里子（福岡大学スポーツ科学部）
進藤　宗洋（福岡大学スポーツ科学部） 37

２）コミュニケーション・スキル改善・向上を意図した生涯スポーツ演習による社会心理的有効性
…… 西田　順一（福岡大学スポーツ科学部）40
３）全生活型体育をめざす講義
…… 飯干　　明（鹿児島大学）42

Ⅲ．体育・スポーツ事情

１．海外だより ── 体育・スポーツの専門的指導者養成への大学の役割と貢献 ──
…… 熊谷　秋三（九州大学健康科学センター）47
２．大学めぐり ── 福岡女学院大学 ──
…… 角南　良幸（福岡女学院大学）49
３．九州地区大学体育連合研修会
１）「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春季研修会の概要 …… 51
２）九州地区大学体育連合春季研修会に参加して
…… 中山　正剛（福岡大学スポーツ科学部）52

Ⅳ．事務局報告

平成17年度　事業報告 …… 55
平成17年度　収支決算書 …… 56
平成18年度　九州地区大学体育連合予算 …… 57
平成18年度　九州地区大学体育連合補正予算 …… 58
平成17年度　九州支部収支精算書 …… 59
平成18年度　事業計画 …… 60
「体育・スポーツ教育研究」の投稿原稿募集について …… 61
九州地区大学体育連合規約 …… 62
平成17年度　九州地区大学体育連合役員名簿 …… 63
平成18年度　九州地区大学体育連合役員名簿 …… 64
平成18年度　九州地区大学体育連合　加盟大学および個人 …… 65
平成17年度　賛助会員一覧 …… 67
平成18年度　賛助会員一覧 …… 67